

支部総会報告

東京支部総会開催

来年度創立60周年記念総会 講演は原田泰治画伯

「木遣り」も出演
5/25

5月26日に平成24年度支部総会、懇親会は母校より松村秀寿教頭、恩師の植松康郎、五藤慶子、茅野正、増沢三平、宮川昭二、山田和雄の各先生、大久保一會長始め同窓会本部、東海支部の諸役員のご出席のもと支部会員合わせ総勢150余名で盛大に開催された。

閉会のごときは引き続き物故者への黙祷、原副支部長指揮、山崎本部会員のピアノ伴奏による校歌斉唱で会は始まった。

式典は例年どおり支部長挨拶、松村教頭のご挨拶、恩師を代表して五藤先生の懐かしいお話の拝聴から始まった。

諏訪支部定期総会

平成24年5月19日(土)午後3時30分より本会総会に先立ってRAKO華乃井ホテルにて20名が出席して開催された。

(一)平成23年度事業報告、決算報告、会計監査報告、承認
(二)役員改選(任期2年)承認
(三)平成24年度事業計画、予算案、原案どおり承認された。

地元支部として学校行事、同窓会事業等に積極的に参加協力し盛り上げる努力を皆ですることを確認した。

選任された役員
支部長(高島地区)宮下孝正
副支部長(城北地区)宮坂正義
(城南地区)内山まさ子
(高島地区)河西克朗



総会にご協力いただけるとのお話をいただいた。

続いて業務報告、会計収支報告、同監督報告が満場一致で承認され、引き続き来賓紹介、恩師・会員からのメッセージが披露された。

恩師のご挨拶をいただきながら同窓の平成17年卒AOI(坂元葵)さんのジェイポップの歌謡ショウで和み、上條前会長の乾杯の音頭で、懇親会へと入り一転会場を轟かせる同窓の昭和40年卒水井秀直氏率いる「富士

見人鼓保存会」による太鼓ショウは、出席者全員、その勇壮・雄大な11人の出演者のパチパチさに魅了された。

懇親会には旧交を温めながら、あちらこちらで、恩師・本部の皆様とともに、支部会員相互にもなごやかな歓談が続いた。そして懐かしい歌や逍遙歌を歌い、万歳三唱、手締め、閉会のごときは5時間30分及びぶ総会・懇親会はお開きとなった。(東京支部長 武藤光史)



胸のつまる思いでした。今回は最後と思っていたのに来年も是非続けたいという人が多く、来年も3月に同じ仙岳で行うことになりました。幼い日の思い出の歌を合唱し、名残りを惜しみながら解散しました。今年の役員は横山一栄、田中清子、岩田ふさ子でした。(岩田ふさ子)

同年会開催

諏訪市立高女昭和20年卒 第45回同年会

昭和20年3月の卒業生は百名ですが、今年まで45回の「絆の会」を続けてきました。出席者は20名でしたが84歳の集いものでよそ今日まで生きたものと語り合いました。一人ずつ近況報告があり、それぞれの生き方に胸のつまる思いでした。

今年も是非続けたいという人が多く、来年も3月に同じ仙岳で行うことになりました。幼い日の思い出の歌を合唱し、名残りを惜しみながら解散しました。今年の役員は横山一栄、田中清子、岩田ふさ子でした。(岩田ふさ子)



昭和32年卒同年会

7月1日(日)に小菅重男先生と北澤忠義先生をお迎えしてラコ華乃井ホテルで行われた。宮坂正義君の司会のもと、幹事代表の山田一豊君の経過報告に続き小菅先生と北澤先生からご挨拶をいただいた。お二人のお元氣な姿に接し「私たちも頑張らなければ」と励まされた。宴会に入り、出席者は41人で前回よりすこし少なかったが、高校時代のこと、現在のこと、友だち

の消息など語り合い、楽しいひと時を過ごした。先生を囲んで写真を撮ったり、部活動仲間であつたりして、高校時代を懐かしむことも多かった。校歌と逍遙歌を歌い閉会となったが、喜寿(77歳)の年にもう一度やりたいたいという声が強かった。



昭和34年卒業
山思会
東京地区人生6まわり同期会

昭和34年は現天皇陛下が美智子妃とご成婚された年、この年ふるさと「諏訪」を離れ第2の人生をスタートしました。来年3月までに12年1まわりと、6まわりの記念すべき年です。そこで今の話や昔懐かしい話、また思い出の歌を唄おうと東京地区の同期60名に呼びかけたところ、26名の出席で盛大に行われました。

8月29日(水)午後1時から四谷駅近くのスクワール麹町で開催。幹事の伊藤和秀氏の開会挨拶につき東京支部同窓会副支部長の原敏雄氏より今年の同窓会状況の報告があり、来年は東京支部創設60周年の記念同窓会です。是非参加しましょうとの呼びかけがありました。

幹事的小川招良氏の乾杯のあと懇談となり出席者の懐かしい写真に「誰だ、誰だ」の歓声、また、当時の校友会誌に本人の

文章やクラブ活動の活躍を見つけた話が弾みました。幹事の芦沢なお子氏より出席者からのメッセージの発表があり、それぞれの近況を語り合いました。

盛り上がったあと、「信濃の国」を全員で声高らかに合唱し、小泉幸則氏の音頭で手締め、幹事の牛山史郎氏の閉会のご挨拶で再会を約して散会した。(山思会幹事)



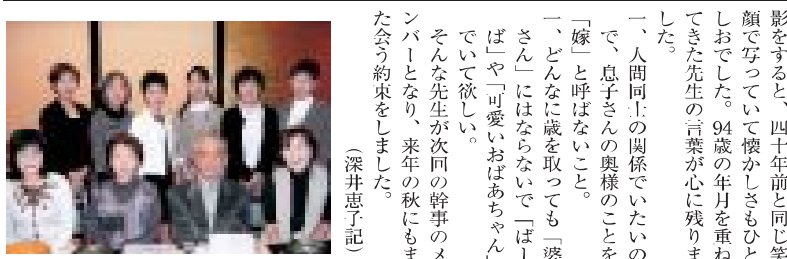
古希を記念して
三六会開催

今年仲間が多く古希を迎えた昭和36年卒の同年会三六会を九月二十日ホテル紅やで開催し、当日は、県内外から47名が出席、恩師の増沢三平先生も出席された。

平均寿命が延びた現代では七十は当たり前、まだまだ頑張っているという話や表情には年輪と共に柔らかさも増し、和やかな雰囲気の中時の経つのも忘れて語り合った。また是非早いうちに次回開催を期待する声の高まりに、幹事一同安堵と共に改めて覚悟させられた三六会であった。幹事 上條 記

10月20日、満開を過ぎた10名の「ひなげし」が海苔の国にて恩師の上島先生を囲み、賑やかに想い出話を花を咲かせました。今の私達は嫁であり、母であり、ばいばいでもあり、仕事も定年まであと残り二年と大変忙しい身でもあるのでなかなか全員参加とはいきません。記念撮影をする、四十年前と同じ笑顔で写っていて懐かしさもひとしおでした。94歳の年月を重ねてきた先生の言葉が心に残りませんでした。

一人、人間同士の関係でいたいので、息子さんの奥様のことを「嫁」と呼ばないこと。
一、どんなに歳を取っても「婆さん」にはならないで「ばいばい」や「可愛いおばあちゃん」でいて欲しい。
そんな先生が次回の幹事のメンバーとなり、来年の秋にもまた会う約束をしました。(深井忠子記)



昭和48年卒業3年F組
ひなげし会